

大学・短期大学と 新卒応援ハローワークの連携 好事例



厚生労働省・都道府県労働局・公共職業安定所

厚生労働省の新卒者・既卒者対策情報を
インターネット上で配信しています。

新卒者・既卒者の皆様へ

検索

URL : <http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2.html>

新卒応援ハローワークとは・・・

ハローワークって、仕事を辞めた人が行くところと思っていませんか？

新卒応援ハローワークは、大学院・大学・短大・高専・専修学校などの学生さんや、卒業後未就職の方の就職を支援する専門のハローワークです。

ご利用は、すべて無料です

全国各地の求人情報（仕事情報・企業情報）が検索できます

仕事探しに関する相談を随時受付中！

臨床心理士による心理的サポートも実施中！

就職フェアや各種セミナーを開催！

既卒者の就職を支援する各種制度も揃っています

さらに、新卒応援ハローワークでは、**学生の就職支援の専門職「ジョブサポーター」**を学校に派遣し、**学校のご要望に応じて就職相談を実施したり、各種セミナーなどを無料で開催しています。**

各地の事例を次ページ以降で紹介します。

新卒応援ハローワークの活用により学生への支援メニューを増やすことができます。
ぜひご利用下さい！お問い合わせは各地の新卒応援ハローワークへ。

大学・短大と新卒応援ハローワークの連携好事例

新卒応援ハローワークからのメールマガジンによる 学生への求人情報の提供

① 抱える課題

- ・学生は採用情報の収集に企業のホームページや民間の情報サイトを活用することが多かった。
- ・中小企業の割合が高い北海道においては、企業側がホームページを十分に整備しておらず、情報サイトにも掲載されていない場合も多く、学生が地元の中小企業の求人情報を収集することが難しかった。



② 支援内容・ポイント・経過

- ・無料かつ全国ネットワークで求人情報を提供できるハローワークの強みをいかし、ハローワークで受理した新卒者対象求人一覧表を2週間に一度、大学・短大等へメールマガジン形式（「ジョブサポ通信」）で発信。
- ・求人情報に加え、面接会やセミナー等イベント情報の案内、ハローワークの支援メニューやジョブサポーターの一言アドバイスも掲載し、就職活動を行う学生に役立つようにした。



③ 結果

- ・メールマガジンの配信学校数は92校となり、学生にとって利用できる求人情報が増えた。
- ・学生に新卒応援ハローワークの周知が進み、学生の受けられる支援が増え、内定者数も増加。

大学・短大と新卒応援ハローワークの連携好事例

就職面接会前に「就活力アップセミナー」を開催

① 抱える課題

- ・大学生等を対象にして開催されている大規模な就職面接会「若年者マッチングフェア」での企業担当者との面接は、事実上の一次選考となっているが、参加する学生にはそうした認識が薄かった。
- ・新卒応援ハローワークで対策のためのセミナーを実施することとしたが、参加を希望する学生への幅広い周知が難しかった。



② 支援内容・ポイント・経過

- ・学校のキャリアセンターから学生にメールマガジンなどにより周知を実施。
- ・新卒応援ハローワークにおいては、就職活動のノウハウに加え、企業側の採用基準や採用したい人物像について、前年のマッチングフェアの事業主アンケートに基づき具体的に説明し、人事担当者・応募者の役割を交代で経験して自己分析を行うグループワークなども実施した。



③ 結果

- ・セミナーについて学校から幅広く学生に周知した結果、セミナーには多数の学生の参加があり、マッチングフェアの効果を高めた。

大学・短大と新卒応援ハローワークの連携好事例

大学と新卒応援ハローワークの連携による 未内定の大学生向け「学内企業説明会」の開催

① 抱える課題

- ・未内定学生への就職支援のために、大学独自で学内企業説明会を開催することとしたが、参加企業を集めるために、企業に幅広く周知をしたいと考えていた。



② 支援内容・ポイント・経過

- ・企業への学内企業説明会の周知のため、企業との接点が豊富な新卒応援ハローワーク内に企業向けの「大学等学校情報紹介コーナー」を設けるなど、新卒応援ハローワークからも企業に周知を行った。
- ・さらに、学内企業説明会に新卒応援ハローワーク相談ブースを設け、未内定者への就職相談を実施。



③ 結果

- ・企業への学内企業説明会の周知が進み、多くの企業が参加した。
- ・未内定者に対し、学校の支援に加え新卒応援ハローワークによる支援も行うことができ、内定に結びついた。

大学・短大と新卒応援ハローワークの連携好事例

大学と新卒応援ハローワークがタイアップした パッケージ研修の開催

① 抱える課題

- ・学内でのキャリア教育に加えて、より実践的なキャリア教育が必要。
- ・学生が「就活スキル」にばかり目を向けてしまい、根本である職業意識が低い。



② 支援内容・ポイント・経過

- ・実践的なキャリア教育を行うために、大学と新卒応援ハローワークがタイアップし、大学3年生を対象に以下の内容のパッケージ研修を実施。
- ・さまざまな求人から1件を選び、その求人に応募すると仮定して、自己分析→企業研究→エントリーシート作成→面接と就職活動の流れを模擬的に体験。実際に就職活動を開始する際に、自己分析や企業研究などの重要性に気づいてもらう。
- ・企業見学を行い、経営者の声を実際に聞くことにより、「仕事とは何か」「就職するとはどういうことか」について考えさせ、「内定獲得がゴールではなく、スタートであること」に気づいてもらう。



③ 結果

- ・就職活動を行うに当たっては自己分析・企業研究等が重要であること、「内定はゴールではなくスタート」であり、前向きに幅広い視野を持つことが重要であること、に3年生のうちから気づかせることに成功

大学・短大と新卒応援ハローワークの連携好事例

免許・資格が必要な専門職希望から他の職種に希望を変更した学生への支援

① 抱える課題

- ・ A女子大学は、幼稚園・学校の教員や栄養士など免許・資格を取得して専門職に就く学生が大半。
- ・ しかし、試験結果が出る卒業年の1月頃から事務職等に希望職種を急遽変更する学生がおり、こうした学生への就職支援が課題となっていた。



② 支援内容・ポイント・経過

- ・ 卒業年の1月は、求人の大部分が既に応募を終了しているため、こうした学生への支援を、新卒応援ハローワークの活用により充実させることとし、未内定の学生は新卒応援ハローワークに誘導。
- ・ 専門分野から一般職種へ希望職種を変更したことで、その後の就職活動に不安を持つ学生に対し、新卒応援ハローワークのジョブサポーターが求人の選定・応募書類の作成・面接の練習など一貫した支援を実施。



③ 結果

- ・ 専門職から他の職種に志望を変更した学生への支援が充実、就職に結びついた。

大学・短大と新卒応援ハローワークの連携好事例

ジョブサポーターによる短期大学1年生全員を対象とした就職活動セミナーの実施

① 抱える課題

- ・短期大学生の就職までのスケジュールは4年制大学の学生に比べ短期間であり、職業・仕事についてしっかり考える前に就職活動に入ってしまうケースが多い。
- ・短期大学側としても、学生に対して、求人情報は提供しているものの、職業・仕事について考えさせたり就職活動の進め方についてアドバイスする支援ノウハウが十分ではなかった。



② 支援内容・ポイント・経過

- ・就職活動を開始する前に、就職活動について知り、仕事・就職について考えるきっかけとするために、全学科の1年生を対象として、ジョブサポーターが講師となって、就職活動セミナーを実施した。
- ・セミナーの内容は、若年者の雇用情勢、業界の研究、応募書類の書き方、グループディスカッションという実践的な内容とした。
- ・短期大学内にジョブサポーターによる出張相談窓口を開設し、学生が気軽に就職について相談できるようにした。



③ 結果

- ・仕事・就職について学生が考えるきっかけとなり、その後の就職活動がスムーズに進んだ。
- ・ジョブサポーターによる出張相談窓口の開設により、短期大学による支援に加え、ジョブサポーターによる支援も受けることができるようになり、内定者の増加につながった。

大学・短大と新卒応援ハローワークの連携好事例

ハローワークのジョブサポーターによる 就職活動講座の実施

① 抱える課題

- ・ B大学の学生は、就職活動に対する危機意識が低く、活動を始める時期が遅かった。
- ・ 外部の社会人との関わりが少なく、社会人としてのコミュニケーション能力が十分ではない学生が多かった。



② 支援内容・ポイント・経過

- ・ 学外の社会人であるハローワークのジョブサポーターがゼミにて就職活動講座を担当。他大学の学生の動向や就職活動に必要な心構え・知識等を伝えることで、就職活動への学生の意識づけを行った。さらに、大学に提出される求人のみではなく、ハローワークの求人にも目を向けることで、選択の幅を拡げるようアドバイス。
- ・ さらに、ジョブサポーターによる出張相談を実施。キャリアセンターによる支援に加え大学内外から学生を支援。



③ 結果

- ・ ゼミに参加した学生は、就職活動に積極的に取り組むようになり、大学の平均を大きく上回る就職内定率となった。

大学・短大と新卒応援ハローワークの連携好事例

面接を突破できない学生への 実践的な模擬面接の実施

① 抱える課題

- ・ C大学の学生は、書類選考や筆記試験は通過するが、面接で落ちてしまうことが多かった。
- ・ こうした学生は、面接の際の振る舞いについて「自分はできている」と思い込んでいたり、どこを直したらよいか分からないことが多く、1人1人の課題にあった対策が必要であるため、新卒応援ハローワークに支援を依頼。



② 支援内容・ポイント・経過

- ・ 民間企業の経験があるジョブサポーターを講師として、入室～面接～退室までをビデオ撮影する模擬面接を実施。ビデオを見ながら学生と一緒に問題点を検討。
- ・ さらに、就職活動応援セミナーの中でも、模擬面接をビデオ撮影し、面接の様子を参加者全員でチェックし、それぞれ「良かった点、悪かった点」を発表。



③ 結果

- ・ 多くの学生が、自分の問題点に気づき、その後8割以上の学生が内定を獲得。

大学・短大と新卒応援ハローワークの連携好事例

教員向けセミナーの実施

① 抱える課題

- ・D大学では、キャリアセンターが就職率向上に総力を挙げている一方で、多くの教員は学生の厳しい就職環境について十分な知識がなく、教員とキャリアセンターの連携に課題があった。
- ・キャリアセンターは、日頃から学生の状況を見ている教員による学生支援が重要と考え、新卒応援ハローワークへ教員向けセミナーの実施を要請。



② 支援内容・ポイント・経過

- ・新卒応援ハローワークのジョブサポーターが、学長、教員50名とキャリアセンター職員4名を対象として「就職できるエントリーシート」と題したセミナーを実施。
- ・セミナーでは、学生の厳しい就職環境を説明し、教員による学生の支援が重要であること、学生の職業理解には教員の知識が大きく役立ち、アドバイスが背中を押す力となることを強調。また、教員が学生にアドバイスできるよう、エントリーシートの作成方法について具体的に説明。



③ 結果

- ・教員とキャリアセンターの連携が深まり、学生への就職支援が充実した。

大学・短大と新卒応援ハローワークの連携好事例

ジョブサポーターの大学常駐による支援

① 抱える課題

- ・学校独自の就職対策には外部の人間が入っていないため、学生と就職担当者間でキャリアカウンセリング等が慣れ合いになってしまい、厳しい就職環境に対応した支援が実施できているか不安があった。
- ・セミナーや模擬面接会の開催を希望するなど学生からのニーズはあるが、大学だけではノウハウがなく、年間スケジュールにとらわれず機動的に開催できていなかった。



② 支援内容・ポイント・経過

- ・大学と新卒応援ハローワークとが学内の就職支援状況を改めて確認したところ、年間スケジュールで実施が決まっていた各種支援以外に、学生のニーズに応じた小規模なセミナーやキャリアカウンセリングの強化が必要との結論に至った。
- ・新卒応援ハローワークのジョブサポーターが週に3回、13時～17時頃まで専用の教室に常駐。さらに、全学年対象の個別相談会、学内セミナー、学校主催の模擬面接会への面接官としての参加などを年間スケジュールに追加して実施。



③ 結果

- ・ジョブサポーターによる定期的なキャリアカウンセリング・学内セミナー、学内個別相談会、模擬面接など学校と連携した就職支援の追加実施により、学生に対する就職支援が充実したなどの効果があった。